大黒屋ホールディングス＜6993＞、MBOを実施｜スタンダード上場は維持

中古ブランド品買取・販売の大黒屋ホールディングスは、MBO（経営陣による買収）を実施し、親会社で、投資会社のキーストーン・パートナース（東京都千代田区）がファンドを通じて出資するSバンク（東京都千代田区）から株式64.38％を取得する。買付主体は島野勝広社長と電子部品製造機器メーカーの東京ウエルズ（東京都大田区）が出資する広大（東京都千代田区）で、ファンド主体ではなく、より安定的に株式を保有し得る株主構成に転換するのが目的。今後は東京ウエルズの電機事業やガバナンスに関する知見などを生かし、リユース事業の成長と法人向け金融事業の立ち上げを進める。

TOB成立後も大黒屋HDの東証スタンダード市場への上場は維持する。

TOB（株式公開買い付け）による買付代金は約150億3600万円。買付価格は1株につき31円で、公表前営業日の終値73円に対して57.53％のディスカウントとなる。

買付予定数は所有割合の64.38％にあたる4億8505万5672株で、Sバンクが保有する株式に相当する。上限、下限も同数。買付期間は2026年11月10日～12月8日までの20営業日。決済の開始日は12月15日。公開買付代理人はSBI証券。大黒屋HDはTOBに賛同を表明した。

大黒屋HDは2025年12月にキーストーンの傘下に入り、経営立て直しを進めていた。